

現代中国における「学校外教育」の研究

小 林 平 造^{*}・秦 璇^{**}

(2006年10月18日 受理)

A Study on the Out of Education in Present-day China
: A case study of Shi-hoi District in Shanghai

KOBAYASHI Heizou・SHIN Sen

はじめに—本研究の課題と方法—

中国では、「改革・開放」政策の導入を背景にして、高度経済成長が生みだされてきた。この経済政策のもとで学校教育、青少年教育も、社会発展の推進に適合するものとして、充実させていくことが目指されている。今日では、これまでの学校教育が教科中心の能力主義偏重であったことが問題とされ、これを批判的にのりこえる学校教育のあり方が検討されてきた。1993年2月には、『中国教育改革と発展綱要』が公布され、教育方針が転換されたがここでは、初等中等教育は「素質教育」¹⁾であるべきことが打ち出されている。この中で、青少年の社会体験・労働・実践など学校外教育の必要が指摘されてきたのである。

特に、1995年に学校五日制が実施されて以降、青少年の学校外における生活時間が多くなった。また、中国の青少年を取り巻く環境は変化してきており、メディア、インターネット、各種娯楽施設を通じて様々な情報が入手できるようになった。反面、青少年犯罪の増加やモラルの低下が社会問題として取り上げられるようになった。そのため、青少年を育成する受け皿として、学校外の生活領域を構築していくことが大きな課題になってきたのである。

本研究で取り上げる現代中国における社区教育²⁾は、1980年代半ばに青少年の学校外教育として始まり、1990年代前半より市民全体を対象とする学習活動として都市部を中心に展開してきた。さらに、1999年の中国教育部『21世紀に向けた教育振興行動計画』では、社区教育を核にした生涯学習の展開が構想されているが、ここでは学校外教育は、社区教育の主要部分として位置づけられた。こうして今日、社区教育としての学校外教育は、学校教育と密接な関係を持ちながら、その内容やあり方を本格的に検討することが課題となっている。

本研究は、中国における現代的な学校外教育の成立過程を実証的に解明することを目的とする。具体的には、上海市都市部の地域事例を中心にして検討し、その特徴と意義を明らかにしていくこととする。

^{*} 鹿児島大学教育学部教授

^{**} 鹿児島大学大学院教育学研究科修士課程修了 2006年3月

1. 中国における学校外教育の概観

中国では、旧ソ連の教育制度や教育学研究の影響で、子どもの身体・学力・人格面など発達のために、教育といわれるものは、学校で行なわれるばかりではなく、学校外教育・文化によっても、担われるという認識があった。1980年代以降の経済発展を目指す改革開放政策を展開する中国共産党・中央政府では、社会主義の維持、共産党の指導性の堅持とともに国民のモラル向上、犯罪・汚職の危機状況に迫られ、青少年の思想道徳向上は、長期的な課題として考えられた。これらを社会的背景として、文化大革命を乗り越えた後の1980年代に入ると、少年先鋒隊の活動や学校外教育施設での青少年教育活動が復活した。90年代には、高度経済成長によって、学校外教育文化施設を設置する経済的余裕が出てきて、国の政策に学校外教育施設の設置が組み込まれるようになり、学校外教育の普及と整備がはかられている。

こうした動向は、都市部において顕著である。1980年代半ばに、社区教育は、発展の著しい上海などを中心として青少年の学校外教育として発足し、1990年代前半より、市民全体を対象とする学習活動として展開した。ここで、社区教育としての青少年教育は積極的に進められ、取り組みが盛んになっている。

中国においては、革命後にずっと少年先鋒隊の諸活動と教育活動が展開されており、これが中国における学校外教育の一つの構成部分として今日においても継承されている。第2の構成部分としては、少年文化宮や青少年教育施設の取り組みを指摘することができる。しかし今日における学校外教育は、第3の構成部分を含めて総合的な展開をみるものとして捉えなければならない実態にある。それは、1980年代から展開してきた社区教育と共に発展してきた青少年のための学校外教育である。以下に3つの構成部分を紹介しておこう。

1) 少年先鋒隊と学校外教育

少年先鋒隊は、1949年10月に、中国共産主義青年団の提唱のもとに発足し、7歳から14歳までの児童・生徒が加入する全国組織である。しかし、子どもすべてが加入する組織ではなく、子どもたちが志願し、審査を経て隊員となる。現在、全国で少年先鋒隊員が一億三千万人いる。

中国の学校教育がそうであるように、少年先鋒隊もまた、社会主義社会建設の人材を育成する任務をもっており、少年児童が共産主義を学ぶ学校、学校教育に欠かせない助手、社会主義や共産主義を建設する予備隊とされている³⁾。少年先鋒隊の基層組織は、学校内部において、子ども組織として構成されている。その教育活動は学校教育と表裏一体となっている⁴⁾。学校の課外活動や校外活動は、少年先鋒隊の小隊、中隊活動として取り組まれている。また、放課後、週末、休日においても、子どもの学校外生活は、少年先鋒隊としての集団活動として取り組まれている。

2) 学校教育施設で取られる学校外教育

中国では、政府立の少年の家や少年宮、少年活動センター、青少年科学技術館などが、子どもの興味や関心に対応した諸活動を行っている。そうした活動を通して子どもたちは様々な体験や学び、社会参画活動などの場を得ている。

学校外教育施設は、教育局、共産主義青年団または女性連合会などの国家教育行政部門によって設立された。2001年の中国国家教育部統計によると、学校外教育施設は全国に2000カ所余ある。これらの青少年文化施設のなかで、少年宮は最も多い。学校外施設の代表格である少年宮での教育活動は、具体的には、科学技術や文学、芸術、体育を普及し、「全面的な成長を促進する」ことである。少年宮は、各行政地域ごとに設けられており、二胡などの中国古典音楽などのさまざまな芸術から、コンピュータなど科学的な分野、武術などのスポーツや囲碁、将棋、英会話にわたるまで、多様なカリキュラムがある。対象年齢は5歳から16歳ぐらいまでで、児童・生徒が学校終了後に通ってくる。

3) 社区教育の展開と学校外教育

社区とは、communityの中国語訳であるが、中国の場合、行政権力を含み込んで一定の地域的広がりとする・物的・金的・資金的基盤を持つ組織体を意味している。それは行政機構（区—街道⁵⁾、鎮—村）が組み込まれている組織体であり、基層に住民組織＝居民委員会（村民委員会）がある。

社区教育は、1980年代半ばに、青少年の学校外教育として始められ、学校と教師をその社区において支援すると共に、学校のもつ教育的機能を社区に開放し、社区全体の文化水準を高めようとしたものであった。

①社区教育の誕生

改革開放政策の推進に伴い、学校教育に対しても経済発展に資する人材養成への社会的な要求も高まりを見せた。このころ共産党と政府は、経済を発展させながら社会主義体制を維持し、同時に国民のモラル向上や犯罪・汚職の防止をも目的とする「社会主義精神文明建設」運動をすすめていた。こうした流れに沿って、思想教育や道德教育を行う「德育」が、学校教育現場で重視されるのはもちろん、各方面・団体が連携して地域社会も德育の場としての役割を果たすことが期待された。

青少年道德教育の支援を目的として社区教育は生まれた。1986年9月30日、上海市普陀区真如中学校では、初の社区教育組織となる「真如中学校社区教育委員会」が誕生した。学校を中心とするその委員会の構成員は、学校近在の企業や解放軍、商店及び鎮政府などから選ばれた者である。⁶⁾

真如中学校社区教育委員会は当初学校が行う社区教育へのとりくみであったが、後に行政も社区教育に参画するようになる。そうした初の事例として、1988年3月21日、上海市閘北区の新疆、彭浦の二つの街道が同時に「街道社区教育委員会」を設立している。さらに閘北区は翌年に「区社区教育委員会」を設けている。1988年4月10日には、上海市長寧区に「長寧区社区教育委員会」が組織され、さらに同月、「街道社区教育委員会」が結成されている。ここに、二つの行政レベル（区

と街道)の社区教育組織を展開する局面が形成されており、同様の形式が全国的に広がっていったのである。

発足段階の社区教育とは、学校・教師を支援する地域の体制づくりであり、同時に地域の青少年教育への社会支援であった。

②社区教育の発展

1993年に、北京において「全国社区教育研究討議会」が開催され、社区教育委員会が設置された。その目的は、社区教育の推進、課題研究や実践の推進、国内各地と国際的な社区教育交流であった。とりくみは数年の実践を経て、学校を社区に開放し、社区教育の対象も小中学生から社区全員まで広がられていく。

1999年、中国教育部は、それまでの社区教育を基本にしつつ、さらに強力で効率的な社区教育を推進するため、新たな社区教育の実験を行った。『21世紀に向けた教育振興行動計画』の中で、「社区教育の実験を展開し、生涯教育システムを成立し、改善して、国民の資質を高める」と指摘している。

2000年4月に、中国教育部は、8ヶ所の社区教育実験区を設立した。2001年末の統計によれば、全国各地で、すでに110余の社区教育実験区が設置され、「国家、省、市」という三レベルの社区教育実践ネットワークが形成されている。⁷⁾

2. 上海市徐匯区における学校外教育の実践

上海市の総面積は6340km²で、上海市政府統計局によれば、2004年の戸籍人口は約1352万人であり、これに流動人口を入れた常住人口は1742万人である。上海市の行政区画のなかには、18の区と2つの県が含まれる。そのなかに、204の鎮(小都市)と8の郷(村)、100の街道弁事処、3,703の居民委員会、2,801の村民委員会が含まれている。

今回の調査で訪問したのは、南西部の徐匯区である。その総面積は54.8km²で、常住人口は106万人である。そのうち、青少年は12万人である。徐匯区は13つの街道・鎮、360の居民委員会、16の村民委員会をもつ。徐匯区には、上海交通大学、復旦大学など12大学があり、中科院上海分院など科学研究機構が117あり、快適な住宅区、繁華な商業地区も備え、居住、商業、公共活動が一体となった総合型社区と言える。

上海市徐匯区及び区内の街道と居民委員会における青少年を対象とした社区教育の実践と特徴をみてみよう。

1) 徐匯区における少年先鋒隊の学校外教育活動

上海市徐匯区の少年先鋒隊の総指導機関は徐匯区少年先鋒隊工作委员会である。区内の小中学校

合同の少年先鋒隊活動と学校単位での少年先鋒隊の教育活動がある。合同での活動は、徐匯区少年先鋒隊総指導員、徐匯区少年先鋒隊工作委员会主任、少年先鋒隊教育調査研究員の3者が計画を立てている。また各小中学校の少年先鋒隊の教育活動はそれぞれが自主的に計画するほか、合同での少年先鋒隊の教育活動に合わせて計画を策定して参加する。

徐匯区における、各小中学校の少年先鋒隊の教育活動は多様である。事例を三つ紹介しておこう。

①「共建単位⁸⁾」による学校外教育活動

2000年から田林第三小学校では、少年先鋒隊小隊（クラス単位）と田林街道下の企業・団体などが合同で学校外教育を取り組む組織をつくり、「共建単位」と呼ばれる契約をした。2004年には15の「共建単位」に至っている。「共建単位」の契約者は学校の少年先鋒隊小隊の指導員（クラス担任）と企業・団体の担当者（共產主義青年団委員会書記）であり、不定期にクラスの学校外教育活動を行う。指導員は企業体・団体の教育資源を利用して小隊活動を行うために、企業体・団体の責任者と連絡して働きかける。企業体・団体の責任者は、小隊活動を行うため、企業・団体の人員や施設、場所などの調整をする。活動はスーパーマーケット経営の見学、幼稚園で園児の保育体験、居民委員会やバスセンターでの奉仕活動などである。

②「週末小隊活動」

2002年から、徐匯区青少年活動センターの提案で、「週末小隊活動」を行っている。「小隊」は、近所の少年先鋒隊員10人程度で構成され、隊員は自由に小隊の指導員（親）を招聘し、自主的な活動を計画して実施する。例えば、親子小運動会、歌謡コンサート、居民委员会の手伝い（掃除）などである。

③「社区サービス・カード」

田林中学校は2004年から、生徒が社区での奉仕活動（社区サービス）に参加した場合、1時間を1点として、生徒が中学4年間のうちに、週末や夏休みを利用して、計30点を取るよう義務づけている。少年先鋒隊の小隊活動として参加しても、個人として参加してもいい。社区サービスとは居民委员会の手伝い、バスセンターでの洗車などである。

2) 徐匯区青少年活動センターの実践

2002年9月、上海市徐匯区青少年活動センターが設立されている。これは1952年設立された徐匯区少年宮と1977年設立された徐匯区青少年科学技術指導ステーションが合併してできた。活動センターは中央センターと三つの分館を設けており、中央センターの建築面積は約1万㎡である。

徐匯区青少年活動センターは、徐匯区少年工作委员会と区教育局科学芸術体育衛生科の指導をうけ、地域の子どもの学習要求に応じて、様々な教育活動を行う。機能は二つに大きく分かれている。

その1つは「活動」であり、2つは「養成」である。

「活動」は少年先鋒隊の教育活動を指している。少年先鋒隊の教育活動は学校ごとに組織されているが、学校の内、あるいは学校の枠を超えて、地区のセンター的な役割を担っている学校外教育機関で展開されることが多い。そこで徐匯区青少年活動センターでは、各種のテーマ集会・交流会などを組織・実施している。例えば、2005年3月に徐匯区春季少年先鋒隊の連合大隊活動『私の先生は一番』という文化祭があった。そこでは区内の各小中学校の少年先鋒隊がそのテーマに合わせて、教育活動を行った。

「養成」とは、子どもが興味ある分野を伸ばす教育である。「興味小組」,「特長班」といわれるサークル活動を徐匯区青少年活動センターがプログラムしている。このプログラムは、芸術、スポーツ、科学技術、アカデミックな分野のいずれの需要にも対応しており、また、特性ある子どもへの高度な指導も行っている。

3) 徐匯区における社区教育としての青少年教育の実践

①上海市「青少年保護ネットワーク」の組織化と徐匯区の青少年教育に関する行政組織

上海市においては、地域における教育環境の健全化、青少年の権利保護、青少年の健康な成長の保障などのために、1987年に『上海市青少年保護条例』が公布された。また、青少年保護委員会を設立し、青少年保護事業のネットワーク化が進んで、上海市における社区教育としての青少年教育の組織づくりと実践が展開された。また、青少年の保護と教育に関して、三つの行政レベルのネットワーク（市、区、街道）と五つの「保護」（国家機関による保護、家庭における保護、学校における保護、社会的な保護、青少年自らによる自衛）という事業秩序が形成された。⁹⁾

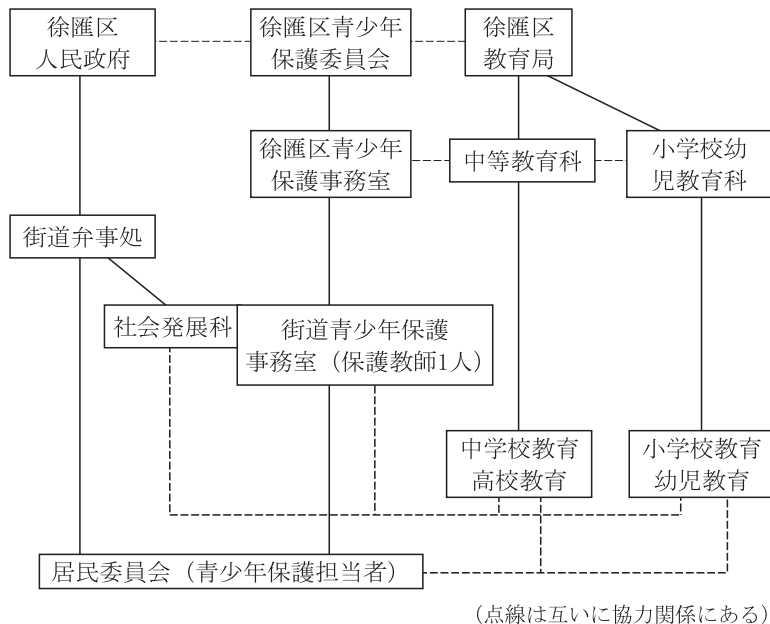
上海市の場合、区と街道で社区教育委員会ができた時は、すでに青少年保護委員会は設立されていた。いずれも役割は一致しており、対象は青少年であった。そのため、双方が一体となって青少年教育を行う形態が多く見られた。しかし、90年代に入り、社区教育の概念が区内の住民全体を対象とする学習活動に変遷すると、社区教育委員会の役割も変化した。そのうち社区教育の中心である青少年教育は青少年保護委員会によって取り組まれている。

徐匯区青少年保護委員会では、教育担当の区政府副区长を主任、教育局の副局長を副主任に、公安、財政、文化、体育、都市建設、衛生、労働組合、女性連合会、青年連合会、共産主義青年団、少年先鋒隊など、政府部門と関連団体の幹部が委員を務めている。徐匯区青少年保護委員会の事務室は区政府に置かれており、事務室の成員は主に徐匯区教育局における中等教育科の職員からなる。徐匯区下の各街道青少年保護委員会では、文化教育担当の街道弁事処副主任を委員会の主任に、各街道の公安、財政、文化、体育、都市建設、衛生、労働組合、女性連合会、青年連合会、共産主義青年団、少年先鋒隊など、政府部門と関連団体の責任者が委員を務めている。

街道青少年保護委員会の事務室（以下、事務室と略）は、街道弁事処の社会発展科の中に置かれ

ている。事務室の責任者は街道社会発展科の科長が兼ね、社会発展科の職員は事務室員でもある。別に区教育局所属の街道青少年保護教師1人が、教育経験豊富な教師から選ばれて、区徐匯区青少年保護委員会の任命で、事務を行う。街道青少年保護教師は街道を基盤とする社会発展科の係と協力しながら、青少年保護に関する取り組みや青少年の教育活動を計画、実施する。また、居民委員会（町内会）の中にも青少年保護に関する取り組みの担当者がある。その担当者は居民委員会の幹部が務める。居民委員会の青少年保護担当者は、街道青少年保護事務室の指導を受け、居民委員会内の青少年を対象として保護、教育に関する取り組みを行っている（図4を参照）。

図4. 上海市徐匯区における社区教育としての青少年教育に関する行政組織図¹⁰⁾



②徐匯区における社区教育としての青少年教育活動

上海市徐匯区の各街道弁事処（事務所）と居民委員會は、それぞれ地域の実状と財政力に応じて、様々な青少年への社区教育活動を展開している。徐匯区の社区教育としての青少年教育活動は、子どもたちのニーズに応じて幅広い内容を持ち、形式も多種多様である。

社区教育としての青少年教育活動は、区、街道、居民委員会におけるものがある。2004年夏休み
 に、徐匯区徐家匯街道の各居民委員会の活動は578回で参加人数は1776人、街道の活動が15回で参
 加人数は1366人、街道が参加した区の活動が8回で参加人数は474人であった。これらの活動には、
 次の五つの特徴がある。

第1に、中国では夫婦共働きが通常で、これを社会的に保障しなければならないため、学校の長

期休暇には、青少年教育が必要とされることである。上海市の小中学校では、夏休みが二か月、冬休みが三週間ある。上海市の一般的家庭では、両親とも仕事に就いており、長期休暇期間中に、家で子どもの世話をして、教育する大人はいないのが一般である。

第2に、大学生ボランティアが青少年教育活動に参画することである。徐匯区の青少年社区教育活動の特徴として、社区には多様な人材、特に大学生ボランティアがおり、これに参加している。例えば、2004年7月5日～23日の月曜日～金曜日に徐匯区の徐家匯街道和上海師範大学UTAH学院と機械電力学院の学部一、二年生20名余りによって「徐家匯愛心学校」活動が行われた。街道の小中学生100余人が活動に参加した。この「夏休み愛心学校」活動は約10年続いており、社区に定着している。このとりくみではボランティア活動を通じて、青少年に愉快で、充実した夏休みを過ごさせ、同時に、大学生に社会实践能力を養成する二つの役割がある。

第3に、居民委員会において、青少年のニーズに応えた多様な学校外教育活動が行なわれていることである。居民委員会は、社区住民の一番小さい活動単位として青少年社区教育に参加を呼びかける。夏休み前に居民委員会は、子どもに居民委員会への登録を促すお知らせを掲示板に貼り出す。夏休みの始め、小中学生は所属している居民委員会に行き、教育活動に参加するために興味や特徴、連絡方法などを登録しておく。その上で居民委員会の青少年保護・教育に関する取り組みの担当者は、街道青少年保護事務室の指導を受け、自主的に社区における企業、団体、軍隊などの教育資源を活用し、小中学生を組織し、小規模の活動を行うのである。

第4に、教師が社区教育としての学校外教育に参画することにより、学校と社区の連携が緊密になっていることである。これについては、三つの特徴を紹介しておこう。①夏休み前に学校は学生に居民委員会への登録を促し、平日にも社区教育活動に参加するように奨励している。こうして、学校は学生が社区教育活動に参加するのを促進する役割を果たす。②学校は、責任感が強く経験が豊かな教師を選び、夏休み指導員に任命する。例えば2004年の夏休みには、徐匯区湖南街道の下の南模中学校が教師10人を校外指導員として任命し、校区内の4つの居民委員会と連携し、居民委員会の夏休みの青少年社区教育担当者と一緒に活動に取り組んでいる。③学校が施設を開放し、社区の活動で使えるようにしてきた。また、施設の開放だけではなく、子どもたちへの指導、施設の管理を担当する教師も置かれた。

第5に、民族精神の発揚を促す愛国主義教育活動が取り組まれていることである。近年、青少年犯罪の増加やモラルの低下が社会問題として取り上げられるようになり、学校外教育においても、青少年の個性や能力を育てるとともに、徳育の場としての役割が重視されている。徐匯区の事例でも、民族精神の発揚を促す愛国主義教育活動が多く取り組まれている。例えば、2004年夏休みに、徐匯区湖南街道では、「聶耳」¹¹⁾ 精神を学び、革命歌を歌う」活動などを行っている。

3. 上海市における子どもの生活と学校外教育の実態

－田林第三小学校の調査から－

2005年4月13日、上海市徐匯区田林街道の田林第三小学校（児童数971人）の2年生4クラスから2クラス、4年生4クラスから2クラス、5年生4クラスから2クラスを選び、それぞれのクラスの全員221人に調査票を配布した。（調査票は文末の資料1を参照）回収率94.5%であった。具体的には、2年生77人、4年生68人、5年生64人からの回収である。

ここでは、7つの質問項目をふまえて、子どもの平日と休日の実態や、子どもの遊ぶ場所、学習塾と趣味・けいこごとの関わり、街道や居民委員会で取り組む活動への参加の実態、これらについて検討しておこう。

1) 都市化状況における子どもたちの生活実態

①平日の放課後と休日の生活実態

Q1（以下Q1～Q7は、資料2を参照）の結果のように、放課後から帰宅までの生活時間において、いずれの学年でも「すぐ家に帰る」が最も多く、9割前後の子どもが答えた。次いで、2年生の場合「学校で勉強する（宿題をする）」が27.27%を占め、「学校で友達と遊ぶ」が22.08%を占めた。4年生の場合、「学校で勉強する（宿題をする）」が35.29%、「スポーツ活動をする」と「図書館で読書」がそれぞれ20.59%を占めた。5年生の場合「けいこごと・趣味」が23.44%、「学校で友達と一緒に遊ぶ」が21.88%だった。2年生よりかなり多い、ほぼ2割の4、5年生が「図書館で読書」と答えたことが目立つ。

Q2の結果のように、帰宅後の生活時間において、いずれの学年でも「家で勉強する（宿題する）」が最も多く、8割以上の子どもが答えた。次いで、49.35%の2年生、54.41%の4年生、65.63%の5年生が「テレビを見る」と答えた。3番目に33.77%の2年生が「一人で遊ぶ」、36.76%の4年生、45.31%の5年生が「家事の手伝い」と答えた。4番目に、23.38%の2年生が「家事の手伝い」、30.88%の4年生、37.50%の5年生が「一人で遊ぶ」と答えた。

Q3の結果のように、週末の生活時間においては、いずれの学年でも「家で勉強する」が一番多く、ほぼ8割の子どもが答えた。次いで、ほぼ半分の子どもが「テレビを見る」を答えた。2年生の場合、3番目に「友達と遊ぶ」が29.87%、4番目に「一人で遊ぶ」が27.27%、「けいこごと・趣味」が25.94%を占めた。4年生では「友達と遊ぶ」が30.88%、「けいこごと・趣味」が27.94%、「家事の手伝い」が26.47%と続いた。5年生の場合、「塾で勉強する」の35.94%、「友達と遊ぶ」と「家事の手伝い」がそれぞれ34.38%、「けいこごと・趣味」が20.31%となった。その中で、週末に5年生の「塾で勉強する」の比率は2年生の2倍になっている。5年生「家事を手伝う」の比率も2年生の2倍である。また、週末に塾やけいこごとに行く比率が平日の3～5倍になっている。

Q1からQ3を総合して考えると、平日の放課後と週末に家で勉強またはテレビを見る人が最も多く、子どもは室内で過ごすことが多いといえる。次に家で過ごすよりは少ないが、塾やけいこごと・

趣味をして過す子どもが比較的多い。これに対して、少年先鋒隊と居民委員会の活動に参加する子どもは少ないことがわかった。

②子どもの遊ぶ場所

Q 4の結果のように、放課後や休日に子どもの遊び場について、「家」が最も多くほぼ8割の子どもが答えた。次いで、「家の近くの開いているスペース」を6割以上の子どもが答え、「公園」を5割以上の子どもが答えた。次いで、「友達の家」と「親戚の家」という答えの比率が4番目、5番目に多い。つまり、室内で過す子どもが多いものの、外で遊ぶ場所や仲間を欲していることがわかる。

③学習塾と趣味・けいこごと

Q 5の結果のように、塾に行くことについて、2年生の場合、塾に通っている子どもは3割を占める。平均時間は週に2.92時間である。4年生の場合、塾に通っている子どもは7割を占めている。平均時間は週に3.23時間である。5年生の場合、5割の子どもが塾に通っている。平均で週に3.80時間である。

Q 6の結果のように、けいこごと、趣味に行くことについて、2年生の場合、けいこごと、趣味に通っている子どもは5割を占める。平均時間は週に2.77時間である。4年生の場合、けいこごと・趣味に通っている子どもは7割弱を占めている。平均時間は週に1.68時間である。5年生の場合、6割の子どもがけいこごと・趣味に通っている。平均で週に2.21時間である。

このようにけいこごと・趣味や塾に行く子どもが多いのは、親が学力の向上と個性を伸ばすことを重視しているからと考えられる。

Q 1からQ 6を総合して考えると、第1に、Q 1の結果が示すように、放課後でも学校で勉強(宿題)する子どもが3割を占めており、Q 2～3の結果が示すように、平日の放課後、帰宅後および休日は「家で勉強」が際立って多く、8割を占めている。また、Q 5、6の結果が示すように、学習塾やけいこごとに通っている子どもは5割を占めている。このように、放課後の学校における勉強や帰宅後の家で勉強、塾での勉強が、子どもの学校外生活時間において、際立って多くなっていることである。2つは、Q 2、3の結果が示すように、平日の放課後や帰宅後および休日に、「一人で遊ぶ」がほぼ3割を占めている。「テレビ視聴」は5割以上を占めている。Q 4の結果によれば、子どもの遊び場についても、「家で遊ぶ」がほぼ8割を占めている。このように、子どもは室内で一人で過すことが多いといえる。その内容はテレビ視聴と一人遊びが多い。このような調査結果には、学校外の生活時間において、子どもがひとりで過すことが多くなっており、友人や家族など自分以外の他者と触れ合う機会が少なくなっていることである。

これらは都市化が進む中国の社会状況の反映といえよう。こうした状況は、親の子どもへの願いや意識が反映した結果とも思われる。子どもの学力を向上させること、子どもの個性を豊かにする

ことなどによって、開放経済のもとで、進む経済成長と同時に引き起こされる階層分化社会において、よりよい生活や地位をわが子に与えようとする親たちの切なる願いである。

以上にみたような子どもたちの生活実態は、地域や家庭における子どもの形成力を衰退させる要因として捉えられるために看過できない問題である。

2) 子どもの形成力を向上させる土台

ここでは、しかし、次の諸点についても注目する必要がある。第1に、Q1～3の結果が示すように、放課後、「友達と遊ぶ」が2割を占めており、帰宅後も、友たちと遊ぶと家族と遊ぶが合計で2割を占めている。また、休日に、「友たちと遊ぶ」「家族と遊ぶ」が合計で5割弱を占めていることである。第2に、Q4の結果が示すように、子どもの遊び場についても、「家の近くの空いているスペース」を6割以上の子どもが答え、「公園」を5割以上の子どもが答えた。第3に、Q1の結果が示すように、放課後、「スポーツ活動をする」が約15%を占めている。帰宅後のスポーツ活動も5.6%である。あるいは、少年先鋒隊や居民委員会活動への参加は放課後から帰宅後に約1割強になっていることである。第4に、Q2、3の結果が示すように、家の手伝いをする子どもが3割を占めている。第5に、4年生と5年生の場合、帰宅後「図書館で読書」が2割を占めている。

以上の五点に注目してみると、子どもの学校外生活で、遊ぶ友を持ち、家の近くに「空いているスペース」や公園など地域に遊び場をもっている子どもたちの数も決して少ないとはいえない。また、帰宅後に、家族と一緒に遊ぶこどもや、家の手伝いをしている子どもたちが少なからず存在している（約2～3割）。さらには、スポーツ活動への参加、少年先鋒隊や居民委員会活動への参加、放課後に、図書館で読書する4、5年生など、多様な地域生活をもつ子どもの存在も認められる。ここに注目した諸点は、子どもの地域生活を豊かにし、子どもの形成力を向上させる土台を構成するものとして注目されるのである。

3) 街道や居民委員会で取り組む活動への参加の実態

Q7の結果のように2004年に街道や居民委員会でを行った活動に参加した回数について、2年生の場合、1～3回行った子どもが最も多く、6割弱を占めている。高学年（4年生と5年生）の場合、1～3回行った子どもが最も多くほぼ6割を占めている。4～10回以上行った子どもは26.5%を占めている。これに対して、2年生の場合、4～10回以上行った子どもが7.8%を占めているが、上級学年になるしたがって、4回以上街道や居民委員会でを行った活動に参加する割合が増えていく傾向が現れている。

このように、街道や居民委員会でを行った活動への参加について、全学年を通して、1～3回参加した子どもがほぼ6割を占めている。高学年になるしたがって、4～10回以上参加の割合が増えることがわかった。ここには、街道と居民委員会主催の行事への参加が比較的多いといえる。地方政府における学校外教育の行政が具体的な成果を生んでいることが示されている。

しかしながら、一度もいってない子どもは、2年生の35%、4、5年生のほぼ20%となっており、全体を通して、街道や居民委員会で行った活動に参加しない子どもが25%いる実態にある。

ここで、注目しておきたいことは、第1に、少なくとも、街道や居民委員会がおこなった活動に年に1～3回参加した小学生が6割を占めていることである。第2に、年に4～10回以上街道や居民委員会がおこなった活動に参加した小学生が26.5%を占めており、上級年になるにしたがって、この割合が増えている事実である。

この小学校区においては、たしかに、街道や居民委員会が行った活動に参加する小学生が多いとはいえないが、街道や居民委員会のとりくみが一定の影響を持ち始めていることが明らかである。また、高学年になるにしたがって、街道や居民委員会の活動に参加する数が増えている事実は、街道や居民委員会を通じた学校外教育の実践的努力が成果を生み出していることの現れとみることでできよう。街道や居民委員会における実践的な努力は、まだ始まったばかりというべきであろう。この意味において、取り組みに参加する子どもの数は少ないとはいえ、取り組みの発展を見通す上では、示唆に富む調査結果として捉えておきたい。

結 語

1) 現代中国における学校外教育への注目

本研究は、現代中国において、国家政策の一環として取り組まれる社区教育の展開のなかで、社区教育展開の発端となった、子どもの地域生活に対する教育的な諸活動の展開に着目することから、問題関心を広げていったものである。社区教育は、当初、青少年対策行政の必要が生じたところから始められたものである。しかし、改革開放経済を背景とする中国の経済発展は、「都市化」社会を進展させ、国民の経済力を向上させながら都市型市民を生み出してきた。都市型市民は、様々な学習要求を持ち、一方では、都市社会における地域コミュニティの衰退減少への対策が必要になってきた。ここから社区教育の主要な対象としての成人教育が急速に展開されてきたといえる。

こうした経緯から、社区教育研究の主要な関心は、成人教育の分野とコミュニティ再生問題に集中してきた印象がある。ただし事実の経緯をとらえてみれば、当初から課題とされた子どもの地域生活に対する教育的な取り組みの必要は、増大することはあれ、減少することはなかった。この事実注目することが必要である。筆者等は、以上の経緯から、現代中国において、社区教育の展開と共に、新たな学校外教育が成立しつつあると考えたのである。中国における学校外教育は、少年先鋒隊の歴史的な展開などを背景に持つといえるが、今日、あらたな地域社会実態を背景として新たな学校外教育が成立、展開しつつあると考えるのである。本研究は、こうした視点から、まずは社区教育の展開とその理論研究に学びながら、今日の社区における子どもの地域生活に対する教育的な諸活動を地域実証的に明らかにすることにした。そして、そこには明らかに、現代中国における学校外教育行政ともいえる実態が展開していることを把握することができた。

本論においては、上海市都市部の地域事例を中心にして行政の取り組みに関する地域実証的な検討を行なっている。また、一地域（小学校区）の子どもの生活実態調査を行い、子どもの生活実態において問題となっていることは何か、子どもの地域生活を豊かにしていくために土台となる実態は何か、街道や居民委員会における学校外教育の取り組みはいかなる意味を持っているのか、などを吟味した。ここから、今日の中国において成立しつつある学校外教育の特徴と意義が明らかにされている。

2) 現代中国における学校外教育の実態—その成立と特徴に着目して—

中国では、旧ソ連における教育制度の成立と教育学研究の影響で、子どもの人間的発達のために行われる教育とは、学校のみならず学校外教育によっても、担われているという認識があった。また、経済発展を目指す改革開放政策を展開する中、共産党と政府は、社会主義を維持し、犯罪・汚職の危機状況を乗り越えるために、青少年の思想道德の向上を、長期的な課題として考えていた。それらを背景として、少年先鋒隊の諸活動と教育活動が展開されており、これが中国における学校外教育の一つの構成部分として今日においても継承されている。

第二の構成部分としては、少年文化宮や青少年教育施設の取り組みを指摘することができる。しかし、今日における学校外教育は、第三の構成部分を含めて総合的な展開をみるものとして捉えなければならない実態にある。それは、1980年代から展開してきた社区教育とともに発展した社区教育としての青少年のための学校外教育である。

今日の中国における学校外教育は、高度成長のもとで成立した中国的な「都市化」社会を背景とした「社区」の弱体化と青少年問題の増加、一人っ子政策や夫婦共働き家庭の子育ての問題などを背景とした社会において成立してきたといえる。こうした動向は中国の大都市部において著しいが、地方行政においても、具体的な展開が確認される。また「社区」においては、住民自治組織である居民委員会においても受けとめられ、この段階での学校外教育の実践が徐々に定着してきているといえる。

上海市の調査地域の事例分析により、上海市徐匯区の各街道弁事処（事務所）と居民委員会は、それぞれ地域の実状と財政力に応じて、様々な青少年への社区教育活動を展開していることが分かった。本研究では、前述したように、その社区教育活動の特徴を五つに整理した。

3) 現代中国における学校外教育の意義と課題

以上の説明をふまえてみれば、中国における、現代的な学校外教育の成立・展開過程を確認することができる。そして、現代中国における学校外教育には、次の三つの意義を指摘することができる。一つは、学校外教育は、青少年の個性や能力を育てるとともに、徳育の場としての役割を果していることである。二つは、ほとんどの家庭で両親共働きの実態にある中国においては、通学期間、長期の休暇とともに、子どもたちの教育にあたる者がいない。これらは、学校外教育が必要とさ

れる要因の一つであるが、学校外教育が社会主義社会の労働参加を保障する社会保障としての意味を持ち、その一方で子どもにとっては、学習権と生存権に関わる権利保障の意味を持っていることである。三つは、今日の学校外教育では、徐匯区における社区教育としての青少年教育の実践分析で指摘したように、子どもの多種多様な要望に応えられるだけの体制が整ってきており、現代的な学校外教育が子どもの地域生活を充実させていることである。例えば、田林第三小学校区の調査分析で明らかのように、子どもの形成力を衰退させている要因が大きくなっているが、その一方で、子どもの形成力を向上させる土台となる要素が少なからず存在していることも事実であった。それは、問題状況下において、子どもの学校外教育活動実践を取り組み、方向づけるための土台であるといえることができる。同じ調査分析で明らかにしたように、街道や居民委員会が取り組んでいる実践が成果をうみだしてきており、こうした努力が、先に見た実践的な土台に結んでいくことで、成果を生み出す方向が見えているといってもいいであろう。

ところで、今回事例としてとりあげた上海市徐匯区の学校外教育をみたとき、子どもたちは保護され、教育される客体の位置に置かれていることが多く、自ら意見表明し、主体的な活動を行うなど、子どもを主体とする活動の筋道が明らかになっていない。ここでは、学校外教育における子どもの自治的、主体的な活動論づくりが課題として指摘される。

また、街道弁事処（事務所）や居民委員会が取り組む青少年への諸活動は、小中学生の自発的な参加がなければ、有名無実なものとなる。したがって、小中学生の自発的な参加を工夫しなければならない。そのような取り組みを具体化するためには、学校外教育に関する専門的な力量が必要である。そうした力量をもつ職員養成は大きな課題となっている。それだけではなく、現代中国における青少年の学校外教育計画論の本格的な創出が課題となっていることも指摘しておきたい。

資料 1

『关于儿童生活状态的问卷调查』

回答人：（ ）年組 （ ）岁 性別 （ ）

Q 1 你从放学后到回家以前，做什么？其中，你做的最多的3个选项后划上“√”

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| 1, 放学后马上回家了 () | 2, 一个人在学校玩 () |
| 3, 在学校和同学, 朋友玩 () | 4, 在学校学习, 做作业 () |
| 5, 上补习班或家教学习 () | 6, 参加体育活动 () |
| 7, 参加少先队的活动 () | 8, 上兴趣班 如舞蹈班, 钢琴班, 美术班 () |
| 9, 参加居委会组织的活动 () | 10, 到图书馆看书 () |
| 11, 其他 () | |

Q2 你回家后，到睡觉以前做些什么？其中，你做的最多的3个选项后划上“✓”

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1, 一个人玩 () | 2, 和朋友一起玩 () |
| 3, 和爸爸妈妈一起玩 () | 4, 在家里学习 () |
| 5, 上补习班或家教学习 () | 6, 参加体育活动 () |
| 7, 上兴趣班 如舞蹈班, 钢琴班, 美术班 () | 8, 看电视 () |
| 9, 参加少先队的活动 () | 10, 参加居委会组织的活动 () |
| 11, 帮忙做家务事 () | 12, 其他 (_____) |

Q3 你在周末做些什么？其中，你做的最多的3个选项后划上“✓”

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1, 一个人玩 () | 2, 和朋友一起玩 () |
| 3, 和爸爸妈妈一起玩 () | 4, 在家里学习 () |
| 5, 上补习班或家教学习 () | 6, 参加体育活动 () |
| 7, 上兴趣班 如舞蹈班, 钢琴班, 美术班 () | 8, 看电视 () |
| 9, 参加少先队的活动 () | 10, 参加居委会组织的活动 () |
| 11, 帮忙做家务事 () | 12, 其他 (_____) |

Q4 放学后或者休息日里，你在哪里玩？其中，玩的最多的3个地方的选项后划上“✓”

- | | | |
|---------------|-------------------|--------------|
| 1, 学校 () | 2, 家里 () | 3, 朋友的家里 () |
| 4, 亲戚的家里 () | 5, 图书馆, 少年宫等等 () | |
| 6, 居委会活动室 () | 7, 公园 () | |
| 8, 家附近的空地 () | 9, 其他 (_____) | |

Q5 你在上学习班或者是家教吗 () (填“是”或者“否”)

每星期上 () 次

每次平均是 () 小时

Q6 你在上兴趣班吗 () (填“是”或者“否”)

每星期上 () 次

每次平均是 () 小时

Q7 去年，你参加居委会或者街道组织的活动几次？ () 次

问卷结束

真心的感谢您的合作！

資料2 『田林第三小学校調査』から

Q1 あなたは放課後、家に帰るまで何をしますか。多いもの三つを選んでください。

*解答無し及び1つ、2つの解答のみの場合も含んでいる。

	2年生(77人)	4年生(68人)	5年生(64人)
① すぐ家に帰る	96.10% (74)	86.76% (59)	98.44% (63)
② 学校で一人遊ぶ	6.49% (5)	2.94% (2)	0.00% (0)
③ 学校で友達と一緒に遊ぶ	22.08% (17)	19.12% (13)	21.88% (14)
④ 学校で勉強する(宿題する)	27.27% (21)	35.29% (24)	20.31% (13)
⑤ 塾で勉強する	12.99% (10)	17.65% (12)	6.25% (4)
⑥ スポーツ活動をする	10.39% (8)	20.59% (14)	14.06% (9)
⑦ 少年先鋒隊の活動に参加する	1.30% (1)	11.76% (8)	9.38% (6)
⑧ けいこごと・趣味	7.79% (6)	14.71% (10)	23.44% (15)
⑨ 居民委員会の活動に参加する	2.60% (2)	5.88% (4)	3.13% (2)
⑩ 図書館で読書	3.90% (3)	20.59% (14)	20.31% (13)
⑪ その他	0.00% (0)	5.88% (4)	7.81% (5)

Q2 あなたは家に帰ってから、寝るまで何をしますか。多いもの三つを選んでください。

*解答無し及び1つ、2つの解答のみの場合も含んでいる。

	2年生(77人)	4年生(68人)	5年生(64人)
① 一人で遊ぶ	33.77% (26)	30.88% (21)	37.50% (24)
② 友達と一緒に遊ぶ	10.39% (8)	7.35% (5)	9.38% (6)
③ 家族と一緒に遊ぶ	23.38% (18)	7.35% (5)	7.81% (5)
④ 家で勉強する(宿題する)	84.42% (65)	85.29% (58)	89.06% (57)
⑤ 塾で勉強する	2.60% (2)	11.76% (8)	9.38% (6)
⑥ スポーツ活動をする	2.60% (2)	5.88% (4)	9.38% (6)
⑦ けいこごと・趣味	11.69% (9)	14.71% (10)	4.69% (3)
⑧ テレビをみる	49.35% (38)	54.41% (37)	65.63% (42)
⑨ 少年先鋒隊の活動に参加する	0.00% (0)	4.41% (3)	1.56% (1)
⑩ 居民委員会の活動に参加する	2.60% (2)	4.41% (3)	3.13% (2)
⑪ 家事を手伝う	23.38% (18)	36.76% (25)	45.31% (29)
⑫ その他	5.19% (4)	7.35% (5)	6.25% (4)

Q3 あなたは週末に何をしていますか。多いもの三つを選んでください。

*解答無し及び1つ、2つの解答のみの場合も含んでいる。

2年生(77人)	4年生(68人)	5年生(64人)
----------	----------	----------

① 一人で遊ぶ	27.27% (21)	19.12% (13)	17.19% (11)
② 友達と一緒に遊ぶ	29.87% (23)	30.88% (21)	34.38% (22)
③ 家族と一緒に遊ぶ	24.68% (19)	13.24% (9)	1.56% (1)
④ 家で勉強する (宿題する)	74.03% (57)	80.88% (55)	82.81% (53)
⑤ 塾で勉強する	12.99% (10)	25.00% (17)	35.94% (23)
⑥ スポーツ活動をする	10.39% (8)	8.82% (6)	7.81% (5)
⑦ けいこごと・趣味	25.97% (20)	27.94% (19)	20.31% (13)
⑧ テレビを見る	51.95% (40)	51.47% (35)	57.81% (37)
⑨ 少年先鋒隊の活動に参加する	1.30% (1)	1.47% (1)	0.00% (0)
⑩ 居民委員会の活動に参加する	1.30% (1)	4.41% (3)	4.69% (3)
⑪ 家事を手伝う	18.18% (14)	26.47% (18)	34.38% (22)
⑫ その他	1.30% (1)	1.47% (1)	3.13% (2)

Q 4 放課後や休日に、どこで遊んでいますか。多いもの三つを選んでください。

* 解答無し及び1つ、2つの解答のみの場合も含んでいる。

	2年生(77人)	4年生(68人)	5年生(64人)
① 学校で	6.49% (5)	1.47% (1)	3.13% (2)
② 家で	76.62% (59)	75.00% (51)	84.38% (54)
③ 友達の家で	33.77% (26)	41.18% (28)	50.00% (32)
④ 親戚の家で	22.08% (17)	33.82% (23)	28.13% (18)
⑤ 図書館や少年宮などで	15.58% (12)	19.12% (13)	15.63% (10)
⑥ 居民委員会活動室で	7.79% (6)	11.76% (8)	15.63% (10)
⑦ 公園で	54.55% (42)	54.41% (37)	59.38% (38)
⑧ 家の近くの開いているスペースで	63.64% (49)	67.65% (46)	67.19% (43)
⑨ その他	9.09% (7)	0.00% (0)	3.13% (2)

Q 5 学習塾に通っているあなたに聞きたいですが、塾に週に何時間ですか？

	2年生(77人)	4年生(68人)	5年生(64人)
通っている率	31.17% (24人)	69.12% (47人)	50.00% (32人)
塾に行く平均時間	2.92 h / 週	3.23 h / 週	3.80 h / 週
0 h	68.83% (53人)	30.88% (21人)	50.00% (32人)
1～2.5 h	16.88% (13人)	26.47% (18人)	20.31% (13人)
2～5.5 h	10.39% (8人)	33.83% (23人)	17.19% (11人)
6 h 以上	3.90% (3人)	8.82% (6人)	12.50% (8人)

Q 6 けいごと・趣味のクラスに通っているあなたに聞きたいですがそのクラスに週に何時間ですか？

	2年生(77人)	4年生(68人)	5年生(64人)
通っている率	54.55% (42人)	67.65% (46人)	60.94% (39人)
けいごと・趣味に行く平均時間			
	2.77 h / 週	1.68 h / 週	2.21 h / 週
0 h	45.45% (35人)	32.35% (22人)	39.06% (25人)
1～2.5 h	35.06% (27人)	52.94% (36人)	48.44% (31人)
2～5.5 h	12.99% (10人)	11.76% (8人)	7.81% (5人)
6 h 以上	6.49% (5人)	2.94% (2人)	4.69% (3人)

Q 7 去年(2004年)、あなたが街道や居民委員会が行う活動に、何回参加したことがありますか？

	2年生(77人)	4年生(68人)	5年生(64人)
0 回	35.06% (27人)	20.59% (14人)	18.75% (12人)
1～3 回	57.14% (44人)	60.29% (41人)	46.88% (30人)
4～6 回	3.90% (3人)	11.76% (8人)	21.88% (14人)
7～10回	3.90% (3人)	5.88% (4人)	4.69% (3人)
10回以上	0.00% (0人)	1.47% (1人)	7.81% (5人)

(注)

- 1) 「素質教育」とは、受験偏重教育を排し、創造性や実践能力を含む徳・知・体の全面にわたって子どもの資質を伸長させようとする教育のこと。
- 2) 「社区教育」とは一定の地域に住んでいる総ての住民を対象として、地域社会の発展や地域における住民の利益向上や地域的な社会問題の解決などに結ぶ学びである。(葉 忠海「中国における社区教育の現状と方向」東京・沖縄・東アジア社会教育研究会『東アジア社会教育研究』No7. 2002年 P 54)
- 3) 『中国少年先鋒隊章程』による。
- 4) 山田清人『新しい中国の新しい教育』(牧書店 1966年 P 108) 参照。
- 5) 「街道」とは、都市部区政府の派出機構、末端行政組織である。
- 6) 袁 采『上海社区教育の实践と認識』(上海社会科学院出版社 1989年 P 2) 参照。
- 7) 吳 遵民「中国における社区教育に関する新しい歩みと模索—中国社区教育实验工作经验交流會議の開催記録について」東京・沖縄・東アジア社会教育研究会『東アジア社会教育研究』No7. 2002年 P 58
- 8) 「単位」とは人々の就業先、たとえば会社、商店、病院、役所、学校、社会・文化団体などを指す場合に使われる言葉であるが、それは単に個人の職業にとどまらず、人々の生活のほぼすべてを管理する一つの制度であるが、一般的に単位制といわれる。黄 丹青「中国都市の街道弁事处と居民委員会について」東京・沖縄・東アジア社会教育研究会『東アジア社会教育研究』No7. 2002年 P 68等参照。
- 9) 「上海市青少年保護条例」による。
- 10) 徐匯区の調査をもとに、筆者等が作成した。
- 11) 聶耳は中華人民共和国国歌の作曲家である。